

審査講評

旧湯布院公民館跡地整備設計業務委託プロポーザル選定委員会

委員長 高尾 忠志

長く人口を維持してきた由布市湯布院町も人口減少、少子高齢化の傾向が顕著になってきている。そんな危機感からだろうか、今回の「旧湯布院公民館跡地整備設計業務委託プロポーザル」に先立って開催された「旧湯布院公民館跡地利用検討委員会」では、子供たちのための場所にする、子供たちの原風景を作る、という真摯な意見が多く出された。対象地にはかつて大きな木があり、それが隣接する小学校の子供たちの原風景になっていたと言う。だから、緑のある空間になると良い、湯布院町のこれまでのまちづくりを継承し、これからを生きる子どもたちへと送り届ける「旧湯布院公民館跡地整備基本構想」の柱のひとつとなった。

一方で、駅周辺の交通環境の改善は、湯布院町時代から由布市が長年にわたって解決を模索してきた重要な課題である。今回の旧湯布院公民館跡地整備は、歩行者や自動車が錯綜する駅前通りに大型の高速バスが進入する危険な現状を解決する貴重なチャンスである。駅周辺の交通問題を解決し、身障者や高齢者、ベビーカーを押す子育て世代、そしてもちろん子供たちも含めて「誰もが歩いて楽しい町」を目指してこれまで20年以上取り組んで来られた湯布院町の皆様の希望に応える整備とするために、亀の井バス様のご理解とご協力により隣接するバスセンターとの一体的な検討が可能となった。これが「旧湯布院公民館跡地整備基本構想」のもうひとつの柱となった。

従って、今回の設計業務の主要な論点は、この2つの方針「子供たちの原風景を作る」と「駅前通りにバスが出ないバスセンターとする」を、限られた敷地の中でいかに両立させるか、そこに計画と設計に関する高い能力が問われるプロポーザルとなった。2次審査では、1次審査（書類選考）で選ばれた5者に、公開でプレゼンテーションを行なっていただき、最優秀者と優秀者を特定した。

最優秀者に特定された「(有) 小野寺康都市設計事務所」は、必須要件としている児童クラブに対する、子供たちの笑顔が見えるような豊かな空間とプログラムが高く評価された。また、児童クラブの建物と周囲の外構広場、小学校敷地等とが連続的で、一体感のある空間として提案された点も高く評価された。さらに、交通計画についても、小学校通学路の安全確保のための歩道整備等、敷地周辺も含めて明確に、わかりやすく提案されており、これら相互が全体として整合のとれた素晴らしい提案内容であった。

優秀者に特定された「(株) スピングラス・アーキテクト」の提案は、約100年前に本多静六博士が湯布院を訪れた歴史も含めて、これまで湯布院町で取り組まれてきたまちづくりの理念に対する深い理解を基盤として、対象敷地を核としてまち全体に展開していく、まちづくりプログラムの提案が高く評価された。今後の由布市のまちづくりにおいて、市民によって実践されることが望まれる。

最優秀者、優秀者に選ばれなかった3者についても、いずれも充実した提案であった。特に、前述した論点について、児童クラブを2階に上げることで立体的に解いたチームの斬新で明快なアイデアも高く評価された。残念ながら今回は特定されるに至らなかったが、今後とも由布市のまちづくりに関心を寄せていただけたら幸いである。由布市の未来のために、これほどに思いと知恵のこもった提案をいただいたことに心から感謝したい。

今後は、設計、施工が順次進められていくが、引き続き市民の皆様との対話や関係機関との協議調整を積み重ねていき、冒頭に述べた通り、この町で育つ子供たちを主役とした場所が実現することが、基本構想に込められた市民の願いである。そして、そのためには、施設完成後も市民の皆様がこの場所に関わり、この場所を育てていくことが重要となる。由布市のそうしたまちづくりが加速するきっかけに、この事業がなればと思う。